

## 慶良間諸島国立公園に係る中央環境審議会自然環境部会現地視察における委員意見の概要

日時：平成 25 年 9 月 29 日～10 月 2 日

出席委員：武内 和彦 部会長、下村 彰男 小委員長、小泉 武栄 委員、  
白山 義久 委員、浜本 奈鼓 委員、宮本 旬子 委員

有識者：小池 勲夫 琉球大学監事、土屋 誠 琉球大学教授

### 【国立公園のテーマ・ストーリー等】

- ・陸域を含めた、また、陸と海のつながりを意識した、指定理由、保護規制計画、テーマに見直すべき。テーマに関しては、サンゴ礁とクジラの生息する海だけではなく多様に捉えるべき。
- ・歴史や自然と関わる生活文化と国立公園との関わりの観点からの資源性をしっかりと評価すべき。
- ・自然環境保全とヒューマンウェルビーイングの両立を図ることが必要。
- ・サステイナブルなライフスタイルの構築のモデルとして提案することまでつなげていくことが大切。
- ・過去の自然環境データを整理して自然の変化のダイナミズムがだれでもわかるようにすることが必要。
- ・文化や生業を含め国立公園を説明するストーリー（英語で言う narrative）をまとめてあげることも必要。

### 【慶良間諸島の自然環境に関する調査】

- ・サンゴの構成や量、場所ごとの違い、生物的な特徴等を評価することが必要。
- ・サンゴだけでなく海洋生物群集全体を保全するべき。
- ・クジラに関する調査、データの整備、利用者への提供が必要。
- ・藻場の現状把握や保全について検討してほしい。
- ・海の資源が損なわれつつあり自然環境の現状を把握することが重要。
- ・浅海域は極めて脆弱な生態系であり、国立公園の保全・管理の視点からのモニタリングが必要不可欠。
- ・海と陸の繋がりについて過去の状況、現状、今後の変遷に関する調査が必要
- ・個人レベルでの調査のとりまとめ、指定後の財産として活用することが必要。
- ・地形の調査は進んでいないが、大事な要素。
- ・無人島にも特異な生態系がある可能性がある。

### 【施設整備・普及啓発に係る意見】

- ・生態系の良さを伝える施設が不足しているので、環境省が責任をもって整備するとともに、地元からのボトムアップで運営していくべき。
- ・地域の歴史（戦争、かつお漁）も地域の特性として、国立公園の中で学べることができるようにすべき。
- ・訪れるビジターを受け入る島民のために、国立公園の価値を理解し、自覚を持つことができるような環境教育や、島民がビジターを受け入れる体制の構築が必要。
- ・指定後に国立公園を紹介する際は、自然の写真だけでなく、そこで頑張っている人たちも紹介してほしい。
- ・国際的な情報発信が重要。

### 【国立公園の保護・管理に係る意見】

- ・サンゴの再生に当たっては移植だけでなく、生息環境を改善して自然に再生することを待つことも重要ではないか。
- ・無人島には海鳥の繁殖地や人為的な影響を受けていない植生があり、それらをどのように保全していくのか検討してほしい。
- ・森林の管理の問題等陸からの人為的なインパクトが海域に影響を与えている可能性もあることから、森林の管理も視野に入れて国立公園の管理を進めて欲しい。
- ・渡嘉敷は座間味と比べて山や谷が比較的深く、森林の状況も様々であることから適切な管理方法はそれぞれ異なる。
- ・森林再生をおこなう場合は、管理の目標設定について地元を含めての議論が必要。
- ・クロマダラソテツシジミ、デイゴコバチ等害虫の管理も必要。
- ・大径木がある区域やビロウ林、海岸のアダン林などはできる限り自然状態とし、また、刈取によって維持されている草地性の希少種や固有種がある場所は二次植生としての管理を進める等、両者を分けて考えた方がよい。
- ・シカを森に入れて被害が出ないようにするためにはどのような森にすればよいのか検討していくべき。